クラス番号	348	担当教員名	原田正樹
テーマ	これからの地域社会、地域福祉を構想する		
著書･論文 研究課題等	『伴走型支援－新しい支援と社会のカタチ』有斐閣：伴走型支援の背景、価値と視点を問う。 『地域福祉ガバナンス』全国社会福祉協議会：地域福祉関係者の新しいガバナンスのあり方。 『地域福祉の基盤づくり』中央法規：今日的な地域福祉の枠組みと方向性、主体形成の方法。 『地域福祉援助をつかむ』:有斐閣:地域を基盤としたソーシャルワークと地域づくりの一体化。 『共に生きること　共に学び合うこと』大学図書出版：福祉教育の原理、内容、方法について。		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：　知多半島、地域共生社会、持続可能な社会開発、プラットフォーム

目的、内容、方法等：

日本はこれから人口が減少し、単身世帯が急増していくと言われます。過疎化と都市化が二極化したり、格差や社会的孤立など課題が山積しています。でも悪いことばかりではありません。そうした地域課題に対して、他人任せにするのではなく、自分たちで行動や提言をしていこうという動きもあります。地域に無ければ自分たちで創り出そうという試みも、始まっています。

実は知多半島という地域には、そうした志のある地域住民や NPO、社協や施設のワーカーたちが大勢います。知多半島には５市５町あり、人口は約６３万人です。南部と中部、北部では、見事に地域特性が違います。それにより地域課題も様々です。ある意味、現代の日本の縮図であり、ここで様々なことを学ぶことができます。

知多半島の NPO 活動を支援する中間支援組織である NPO 法人「地域福祉サポートちた」は、10 年以上前から「0 歳から 100 歳の地域包括ケアシステム」を提唱して、行政や社協など関係者に働きかけてきました。今日の地域共生社会政策の先駆けです。市町にはユニークな活動がたくさんあります。

地域福祉は、生活基盤としての「地域」をもとに、そこに暮らす様々な人たちの生きづらさや葛藤、一方で生きる喜びや感動をわかちあいながら、課題解決に必要な活動や仕組みをつくっていきます。それは一人でやるのではなく、仲間や関係者とプラットフォームをつくりながら進めます。

そんな営みについて現場から学びながら、政策や理論を踏まえ、これからの地域社会のあり方や地域福祉について学び合います。

授業計画：

前期は、３.４年生合同の「共同研究」を行います。４年生の卒論テーマにもとづいてグループに分かれ、それぞれのテーマについて研究していきます。学生たちが取り組むテーマは、合理的配慮、認知症理解、災害・減災、福祉教育、福祉文化、地域福祉計画、ボランティア、NPO、コミュニティソーシャルワークなどです。

共同研究では、文献や論文を読んだり、現場の実践家にヒアリングをしたり、アンケート調査をしたりします。コロナ禍で直接現場へ行くフィールドワークができなくなりましたが、コロナ以前はフィールドワークを重視していました。前期の最後には、グループごとに報告書を作成し、報告会を開催します。

後期は、それぞれの学年ごとに取り組みます。３年生は、ソーシャルワーク実習と関連させながら、自分の関心のあるテーマを深めていきます。また全体でディベートやワークショップをしていきます。そうした取り組みのなかで、少しずつ卒論にむけて準備をしていきます。

卒論のテーマは、自由に決めます。一人ひとり見事にバラバラです。でもどんなテーマであっても、それは「地域」で生じているものです。そのことをみんなで確認しながら、卒論研究に取り組みます。

担当教員からのメッセージ

原田ゼミはよく食べます。美味しいものを探して、みんなで食べに行くのが楽しみでした。春には BBQ をしたり、夏合宿で温泉に行ったりしていましたが、コロナ禍でそれができなくなってしまい残念です。まだしばらくは会食することはできないかもしれませんが、そうした「つながり」は大切にしたいと思っています。

つながりという点では、３.４年生の「共同研究」をしてきたので、卒業生とのネットワークが強いです。社会に出ている先輩たちと数年に一回「大同窓会」をしています。もうひとつは、現場とのつながりです。現場の皆さんと学習会や研究会をします。関心のあるゼミ生は一緒に参加しています。

人が好き、地域に関心がある、そんなゼミを一緒に運営していきたいと思っています。